

研究論文

## 授業方法に関する中間アンケートの効果分析 —授業評価の新たな試みと課題—

松谷 満<sup>1)</sup>・桑折 範彦<sup>1) 2)</sup>・佐野 勝徳<sup>1) 2)</sup>

<sup>1)</sup>徳島大学 全学共通教育センター

<sup>2)</sup>徳島大学 総合科学部

要旨：近年、全国の大学で授業評価アンケート調査が盛んに行われている。しかし、調査の結果は十分に活用されているとは言い難い。本稿では、徳島大学全学共通教育の「授業方法に関する中間アンケート調査」を取り上げ、その現状について分析、考察を行った。2節では、中間アンケートの概要を示し、3節でこれまでの調査結果を振り返った。アンケートが組織的な取り組みとして着実に実施されていること、分野ごとに評価の傾向が異なることが確認された。4節では中間アンケートが実際に授業改善につながったのかを、学生による評価から検討した。その結果、学生も中間アンケートの効果を測りかねている現状が明らかになった。一方で、基礎科目では授業評価が改善につながっている可能性が示された。5節では、結果をさらに詳しく分析し、そのうえで授業改善の方向性についていくつかの課題を示した。

(キーワード：授業評価、授業改善、中間アンケート)

### The Effects of "The Midterm Survey of Class Evaluation" A New Class Evaluation System and Its Problems

Mitsuru MATSUTANI<sup>1)</sup>, Norihiko KOORI<sup>1) 2)</sup> and Katsunori SANO<sup>1) 2)</sup>

<sup>1)</sup>Center for General Education, The University of Tokushima

<sup>2)</sup>Faculty of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima

Abstract: These days, student evaluation surveys are conducted at universities throughout the country. However, the results of the surveys seems not have been adequately utilized. In this paper, we examine "The Midterm Survey of Students' Evaluation for General Education" of the University of Tokushima. In section 2, we give an outline of this survey. In section 3, we examine the results of the past three times of surveys, which show that this survey has been carried out steadily. The features of each field addressed in the evaluation are clarified. In section 4, we examine that the midterm survey has effect on the improvement of the quality of classes. In section 5, we analyze the results in detail and give some problem about the class evaluation system.

(Key Words : class evaluation, improvement of the quality of classes, midterm survey)

#### 1. はじめに

学生による授業評価アンケート調査は、近年ほとんどの大学で実施されるようになった。文部科学省の調査によると、授業評価実施校は1992年度時点では38校(全体の7.3%)にすぎなかったが、2003年度では633校、全体の83.7%を占めるようになった。とくに国立大学ではほぼ全校に近い状況である[1][2]。

授業評価アンケート調査が普及した要因としては、18歳人口の減少や国立大学法人化などさまざまな社会状況の変化により、「社会」の要請に応える形でのアカウンタビリティが重視されるようになったことがあげられる。より直接的には、自己点検・自己評価が義務化されたことの影響であろう。「大学評価」の一環として授業評価アンケート調査は位置づけられているのである[3][4]。



























